

『知って防ごう 熱中症!』

熱中症予防に役立ててもらうため、気象庁では、『高温注意情報』を、環境省では、『暑さ指数』の情報提供を行っています。梅雨や夏を迎えるにあたって、これらの情報などを参考に、十分な対策行って熱中症を予防しましょう。

■熱中症とはどんなもの？

- 気温や湿度が高いなどの環境下で、体内の水分や塩分のバランスが崩れたり、体温調整機能がうまく働かず、体内に熱がこもることになります。
- 子供や高齢者、病気の人は特に熱中症になりやすく、重症になると死に至る場合もあります。
- 正しく予防すれば防ぐことができますので、十分な対策を行いましょう。

■症状は？

めまい、頭痛、嘔吐、倦怠感、筋肉のけいれん意識障害など、さまざまな症状があります。

■熱中症にならないために

- 暑さを避け、暑いときは無理をしない。
- 熱がこもらない風通しの良い服装をする。
- 喉が渴いたと感じる前からこまめに水分補給を行う。
- 運動時や作業時はこまめに休憩を摂る。

この他にも日頃から暑さに備えた体作りをし、栄養バランスを考えた食事や十分な睡眠をとることが必要不可欠です。

■屋内での熱中症にも注意

熱中症は屋内でも起こります。小さい子ども、高齢者、病人がいる家庭では、冷房の使用を我慢すぎないで、適切に利用しましょう。



問い合わせ 佐賀広域消防局 消防課 ☎33-6761

KUSABA HAISEN

草場 佩川

その6

没後150年記念行事

7月13日には、専称寺(多久町)で「諸田賢順を偲ぶ会」が開かれます。草場佩川は音楽にも深い知識と教養を持ちあわせ、諸田賢順の遺した筑紫流箏曲を尊び、その詩のなかで「天上より落つる曲」と表現しています。

にあり、聖廟に残っていた古譜を調べ、創建当時の楽の様式を正しく伝えていくべきことを建言しています。この絵は草場佩川筆「婆心帖」にある儒学者と琴の光景です。

(文責 尾形恵子)

当時音楽は書画と等しく「君子のたしなみ」とされ、なかでも琴は孔子やその門弟が琴を奏でることを好んだ例にならない、儒学者の大切な教養とされてきました。佩川も琴の心得があり、多久家の姫たちに手ほどきをしていた時期もあります。また多久聖廟の釈菜雅楽などでも指導的立場



▶「婆心帖」二七 四民安和

草場佩川の会

問い合わせ 草場佩川の会 桑原峰俊 ☎75-6824